

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00880

研究課題名（和文）信用貨幣の生成と進化のメカニズムに関する歴史実証

研究課題名（英文）Empirical approach to the emergence and evolution of credy money

研究代表者

鎮目 雅人（Shizume, Masato）

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：80432558

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,040,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、前近代・近代を含めた貨幣史・金融史の最新の研究成果を踏まえつつ、社会内部から貨幣と信用が生成され現代の銀行システムの形成に至る過程を、各時代、各地域の特性を考慮しつつ歴史実証的に再検討した。その際、日本貨幣史・金融史の分野における歴史実証研究の成果をより広い視野から検証し、世界史的視野に立って日本における貨幣と信用の展開過程の特質を明らかにした。近世・近代の日本に関する分析を縦系とし、中国、インドを含めた国際比較、ならびに現代金融論の観点からの検討を横系とすることにより、社会内部における貨幣と信用のあり方に関する統合的な理解を目指した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代貨幣制度が生成する以前および近代貨幣制度が生成していく過程に目を向けることにより、中央銀行と民間銀行の二層構造をその中核とする近代貨幣制度の下では覆い隠されてきた貨幣や信用のさまざまな態様を明らかにした。現代の経済社会の下では観察が難しい流動性供給の本質を探ることで、現代の中央銀行制度や銀行規制の在り方の新たな観点から光を当てるとともに、理論研究における貨幣の理解に関しても新たな知見をもたらしている。

研究成果の概要（英文）：This project revisited the emergence and developments of money and credit in a society from a historical perspective. Having started with a critical review of recent historical studies on money and finance, we revisited the pre-modern period during which each society developed its own monetary system and the transition period toward the modern era during which societies were integrated into a global system with the modern banking system in the center of money and credit. We mainly focused on Japanese experience, employing a comparative approach with China and India. We also interpreted these experiences by the contemporary monetary theory. By doing so, we aimed at gaining a global view on the role of money and credit within a society.

研究分野：日本経済史、金融史、貨幣史

キーワード：貨幣史 信用 銀行 藩札 通貨制度 近代移行期 インド金融 中国金融

1. 研究開始当初の背景

近代の社会においては、外部貨幣としての金（金本位制）ないし中央銀行債務（管理通貨制）を支払準備として、民間銀行が信用創造を通じて内部貨幣を供給することで、経済取引に必要な流動性が供給されている。従来の経済理論における通説的理解では、信用乗数の安定性を前提として、中央銀行が金融政策を通じて外部貨幣（ハイパワードマネー）を供給し、これが銀行部門の信用創造活動を通じて経済全体に波及していくとの姿が想定されている。しかしながら、20世紀末から21世紀初頭に日本をはじめとする各国で発生した金融危機と伝統的な金融政策手段の有効性喪失という事態は、通説的理解の再考を迫っている。

近代貨幣制度の成立以前やその生成過程においては、金属を中心とする商品貨幣に起源をもつ外部貨幣と社会内部の信用から派生した内部貨幣が、密接に関係しながら流動性の供給が行われていた。この点に関して、欧米貨幣史の分野では、英蘭銀行史における地金論争や銀行主義・通貨主義論争、スコットランドやニューイングランド、南北戦争前の米国諸州におけるフリーバンキングの経験などを題材とする豊富な研究の蓄積がある。しかしながら、欧米以外の地域について、こうした観点から光を当てた研究は僅かである。

日本の貨幣史研究では、長年の研究蓄積を踏まえつつ、近年、貨幣と信用のあり方についての研究が進展をみせている。具体的には、中近世移行期について、鈴木公雄編『貨幣の地域史：中世から近世へ』（2007年）、近世について、表面上は刃単位の表示でありながら実質的に銭貨での価値を固定するいわゆる銭刃遣いに関する岩橋勝の一連の研究、藩札・私札に関する加藤慶一郎の研究、堂島米市場の機能に着目した高槻泰郎の研究など、近代移行期について、つるみ誠良、石井寛治、寺西重郎の一連の研究などがある。しかしながら、個別研究の蓄積は進みつつあるものの、社会において貨幣と信用が果たしてきた役割を総体的に捉えるには至っていないほか、欧米の研究史とは距離を保ったかたちで行われており、日本の事例を世界史的な文脈で位置づける作業はほとんど行われていない。このように、近年進展しつつある方向での研究をさらに推し進めるとともに、日本の事例を世界史の文脈で位置づけることが求められていた。

2. 研究の目的

本研究では、前近代・近代を含めた日本貨幣史・金融史の最新の研究成果を踏まえつつ、社会内部から貨幣と信用が生成され現代の銀行システムの形成に至る過程を、各時代、各地域の特性を考慮しつつ歴史実証的に検討することとした。その際、日本貨幣史・金融史の分野における歴史実証研究の成果をより広い視野から検証し、世界史的視野に立って日本における貨幣と信用の展開過程の特質を明らかにすることを目指した。方法論としては、史料批判に基づく厳密な歴史実証手続きを基礎としつつ、計量経済学的な分析手法も採り入れながら実証分析の視野を拡げ、その頑健性を高めることとした。近世・近代の日本に関する分析を縦系とし、国際比較、現代金融論の観点からの検討を横系とすることにより、社会内部における貨幣と信用のあり方に関するより統合的な理解を目指すこととした。

3. 研究の方法

経済社会における外部貨幣と内部貨幣の関係性を念頭に置きつつ、各人による事例研究の蓄積と、国際比較を含む事例研究の統合的理解ならびに概念整理を通じた一般化・時期や地域による個別事情抽出作業を並行して進めた。なお、研究成果のうち、国際比較に資すると考えられるものについては、海外研究者との連携を視野に入れて英語での情報発信を行うこととした。

研究成果は、国内外の学会・研究集会における発表、学術書の出版等のかたちで学界ならびに社会への還元を行うほか、研究の過程で収集した資料・データのうち、今後の研究に役立つと考えられるものについては、アーカイブ化したうえで Web 上での共有・公開を展望することとした。

4. 研究成果

信用貨幣の生成と展開に関する研究成果を積極的に国内外の学会等で発表するとともに、学術書ならびに学術論文を多数刊行した（主な学術書、学術論文、学会発表は以下のとおり）。あわせて、本研究の過程で学術的な重要性が再確認された近世～近代移行期の紙幣類（藩札、私札、寺社公家札、政府紙幣、国立銀行紙幣等）の画像データについて、研究成果公開促進費（データベース）等の交付を受けつつ、早稲田大学リポジトリ上で公開を進めている。

学術書：

(1) 鎮目雅人編『信用貨幣の生成と展開：近世～現代の歴史実証』慶應義塾大学出版会、2020年（同書では、編者である研究代表者の鎮目雅人のほか、研究分担者である加藤慶一郎、高木久史、高屋定美、つるみ誠良、西村雄志、諸田博昭、研究協力者である岩橋勝、高槻泰郎、安国良一が分担執筆した）。

(2) 蓮見雄・高屋定美編著『沈まぬユーロ』文眞堂、2021年。

(3) 高槻泰郎編著『豪商の金融史 廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション』慶應義塾

大学出版会。

- (4) Akinobu Kuroda, *A Global History of Money*, Routledge, London and New York, 2020.
- (5) Masato Shizume, *The Japanese Economy During the great Depression: The Emergence of Macroeconomic Policy in A small and Open Economy, 1931-1936*, Springer, 2021.
- (6) Akinobu Kuroda (Karin Pallaver ed.), *Monetary Transitions. Currencies, Colonialism and African Societies*, Palgrave Macmillan, 2022.

学術論文：

- (1) 加藤慶一郎「近世中期・大和農村における紙幣の発行と流通：「曾我村堀内長玄覚書」を中心に」『奈良歴史研究』91号、2020年。
 - (2) 鎮目雅人「歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に」『金融経済研究』第44号、2021年。
 - (3) 鎮目雅人「渋沢栄一と国立銀行：近代日本の経済発展を支えた金融インフラ」『月刊資本市場』429号、2021年。
 - (4) 鎮目雅人「歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に」『金融経済研究』第44巻、2021年。
 - (5) 加藤慶一郎「河内の私札」大阪商業大学商業史博物館編『河内の豪商と文化的ネットワーク：今米村 中家の学芸事情：展覧会』11月号、2022年
 - (6) 加藤慶一郎「東京未来大学所蔵 大西家文書；兵庫県印南郡上荘村の大西銀行を中心に」『大阪商業大学商業史博物館紀要』第22号、2022年
 - (7) 黒田明伸「撰銭以前 志海苔古銭についての一考察」『市立函館博物館研究紀要』第32号、2022年
 - (8) 高木久史「日本貨幣史叙述の枠組みと『大日本貨幣史』」『経済史研究』第25巻
 - (9) 高槻泰郎「加島屋久右衛門の創業と成長：業態変化に着目して」『経営史学』第57巻第1号、2022年
 - (10) 高槻泰郎・上東貴志「投機かリスクヘッジか」『経済史研究』第25巻、2022年
- 加藤慶一郎「藩札をめぐる幕藩関係：藩札審査制度を中心に」『大阪商業大学商業史博物館紀要』第23号、2023年
- 鎮目雅人「金融政策と国債管理：近代日本の経験から」『金融経済研究』第46巻、2023年。
- 高屋定美「欧州グリーンディールと金融機関の役割」『アジア太平洋研究所研究資料』23-04、2023年

学会発表：

- (1) 神戸大学金融研究会主催・兼松セミナー / 日本金融学会歴史部会共催ワークショップ「信用貨幣の生成と展開：近世～近代移行期日本の事例から」2020年。
- (2) Masato Shizume. "Modern Banking Reforms and Financial Activities of Indigenous Merchants: A Case from Japan in the Late 19th Century," 80th Annual Meeting of the Economic History Association, Online virtual platform, 2020.
- (3) 鎮目雅人「金融政策と国債管理：近代日本の経験から」日本金融学会2021年度秋季全国大会・中央銀行パネル、オンライン開催。
- (4) Session in the 19th World Economic History Congress, Paris, 2022, "Crises, money doctors and reforms: Is the new monetary technology a resource or a curse?" (Organizers: Andrez Alvarez, Anders Ogren, Masato Shizume and Vincent Bignon): Masato Shizume, "Money doctors in Japan who created the modern monetary and financial systems;" Hisashi Takagi, "Is Oda Nobunaga the final champion of the medieval or a pioneer of the early modern era? A money doctor in the 16th century Japan;" Takeshi Nishimura, "The role of the international banks under the monetary reforms in Siam, 1888-1913."
- (5) Akinobu Kuroda. "Dynamics assorting exogenous and endogenous monies through imperial Chinese history." The 19th World Economic History Congress, Paris, 2022.
- (6) Akinobu Kuroda. "A Paper Money Standard in the Fourteenth Century China." The 19th World Economic History Congress, Paris, 2022.
- (7) Akinobu Kuroda. "Atomic currencies for the exchanges among commoners." The 19th World Economic History Congress, Paris, 2022.
- (8) Akinobu Kuroda. "Modernity as a product of global delocalization of money." Early Modern Financial History Seminar, 2022.
- (9) Hisashi Takagi. "Poor 's money in Medieval Japan." The 19th World Economic History Congress, Paris, 2022.
- (10) 高木久史「近世日本紙幣の成立経緯に関する古貨幣学的試論」貨幣史研究会、2022年
- (11) 高木久史「太宰春台の貨幣論における素材観：貨幣批判論を中心に」日本の経済思想をめぐる研究会、2022年
- (12) 加藤慶一郎「江戸幕府による藩札の統制について：届出制度を中心に」社会経済史学会第92回全国大会、2023年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 44
2. 論文標題 歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 金融経済研究	6. 最初と最後の頁 115-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 429
2. 論文標題 渋沢栄一と国立銀行：近代日本の経済発展を支えた金融インフラ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊資本市場	6. 最初と最後の頁 48-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 加藤慶一郎	4. 巻 91
2. 論文標題 近世中期・大和農村における紙幣の発行と流通：「曾我 村堀内長玄覚書」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 奈良歴史研究	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 加藤慶一郎	4. 巻 22
2. 論文標題 東京未来大学所蔵 大西家文書：兵庫県印南郡上荘村の 大西銀行を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪商業大学商業史博物館紀要	6. 最初と最後の頁 93-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 22-4
2. 論文標題 EUタクソノミーの実施と、EU域内の金融・経済活動への影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究所資料	6. 最初と最後の頁 87-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 21-3
2. 論文標題 欧州のマイナス金利政策の動向とEU 経済への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア太平洋研究所資料	6. 最初と最後の頁 127-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 696
2. 論文標題 EUの結束は綻びるのか？ブレグジット、COVID-19に揺れるEU	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高木久史	4. 巻 25
2. 論文標題 日本貨幣史叙述の枠組みと『大日本貨幣史』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 89-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 黒田明伸	4. 巻 32
2. 論文標題 撰錢以前 志海苔古銭についての一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 市立函館博物館研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高槻 泰郎、上東 貴志	4. 巻 25
2. 論文標題 投機かりリスクヘッジか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 31 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高木久史	4. 巻 988
2. 論文標題 中近世移行期における貨幣流通の実態をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 諸田博昭	4. 巻 85-2
2. 論文標題 戦間期中国の銀行券発行における領用の役割	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 161-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 TAKAGI Hisashi	4. 巻 50
2. 論文標題 Means of Exchange in Small Transactions in 16th Century Japan: lower class bronze coin, silver currency, and credit use	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語国文論集	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TAKAGI Hisashi	4. 巻 15
2. 論文標題 Reintegration of Bronze Coins during the Late 16th and the Early 17th Century Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 海港都市研究	6. 最初と最後の頁 103-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美、前田直哉	4. 巻 37
2. 論文標題 ボンドネットワークの盛衰：国際通貨のネットワーク効果、協働効果、履歴効果の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 信用理論研究	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 70-6
2. 論文標題 欧州中央銀行による金融政策と銀行監督政策の理論的分析：ECBIは物価安定と金融安定を同時に達成できるのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 311-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高槻泰郎	4. 巻 60
2. 論文標題 寛政十二年大坂御用金に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史艸	6. 最初と最後の頁 35-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 2019-10/11
2. 論文標題 「お金」の今昔物語	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済セミナー	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 246
2. 論文標題 書評：深尾京司・中村尚史・中林真幸編『日本経済の歴史』全6巻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 61-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei Kawamura, Kobashi Yohei, Shizume Masato, Ueda Kozo	4. 巻 100
2. 論文標題 Strategic central bank communication: Discourse analysis of the Bank of Japan's Monthly Report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Economic Dynamics and Control	6. 最初と最後の頁 230 ~ 250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jedc.2018.11.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鎮目雅人	4. 巻 56
2. 論文標題 中央銀行の起源	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 にちぎん	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 1
2. 論文標題 マイナス金利下での欧州生命保険会社の資産管理の研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 かんぽ財団平成29年度調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高屋定美	4. 巻 70-6
2. 論文標題 欧州中央銀行による金融政策と銀行監督政策の理論的分析-ECBは物価安定と金融安定を同時に達成できるのか-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 311-324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 つみ誠良	4. 巻 49
2. 論文標題 明治中期における普通銀行の経営行動—合本銀行論の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地方金融史研究	6. 最初と最後の頁 95-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩橋勝	4. 巻 55-2
2. 論文標題 徳川時代の銭貨在高	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集	6. 最初と最後の頁 51-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akinobu Kuroda	4. 巻 15-2
2. 論文標題 Strategic Peasant and Autonomous Local Market: Revisiting the Rural Economy in Modern China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Asian Studies	6. 最初と最後の頁 195-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S1479591418000049	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安国 良一	4. 巻 49
2. 論文標題 幕末期の銅需要と住友銅吹所	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 住友史料館報	6. 最初と最後の頁 145-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計64件(うち招待講演 15件/うち国際学会 30件)

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Modern Banking Reforms and Financial Activities of Indigenous Merchants: A Case from Japan in the Late 19th Century
3. 学会等名 80th Annual Meeting of the Economic History Association (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Continental Factors in Establishing the Kan'ei Coins by the Tokugawa Government
3. 学会等名 First International Conference on East Asian Cultures (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤慶一郎
2. 発表標題 近世日本の紙幣
3. 学会等名 神戸大学金融研究会主催・兼松セミナー / 日本金融学会歴史部会共催ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安国良一
2. 発表標題 藩札発行における領主の機能
3. 学会等名 神戸大学金融研究会主催・兼松セミナー / 日本金融学会歴史部会共催ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世大坂米市場における価格形成の安定性
3. 学会等名 神戸大学金融研究会主催・兼松セミナー / 日本金融学会歴史部会共催ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 国立銀行の運営における商人の役割
3. 学会等名 神戸大学金融研究会主催・兼松セミナー / 日本金融学会歴史部会共催ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に
3. 学会等名 日本金融学会機関誌『金融経済研究』・慶応義塾大学経済学部・慶応義塾大学経済研究所主催学術コンファレンス
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高屋定美
2. 発表標題 ユーロの国際的役割
3. 学会等名 日本EU学会2020年研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高屋定美
2. 発表標題 気候変動リスクに対する中央銀行の役割：欧州グリーンディールにおけるECBの役割を中心に
3. 学会等名 日本国際経済学会2021年全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 How did the Gold-Exchange Standard contribute to the Expansion of the Intra-Asian trade before the First World War? the integration between silver-using currency system and pound-sterling as the key currency in Asia
3. 学会等名 Baltic Connection 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 The Businesses of the Hongkong and Shanghai Banking Corporation in Southeast Asia at the Turn of the Twentieth Century
3. 学会等名 2nd World Congress of Business History (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 太宰春台の貨幣論における素材観 紙幣批判論を中心に
3. 学会等名 日本の経済思想をめぐる研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世日本の気候変動研究序説 気候・市場・幕藩体制
3. 学会等名 京都大学人文科学研究所共同研究拠点「環境問題の社会史的研究」報告会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 大坂商人が支えた大名財政 融資・藩札発行・産業育成
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 渋沢栄一の紙幣事始め：播磨国一橋領での経験と国立銀行
3. 学会等名 神戸大学経済経営研究所ウェビナー 藩札から銀行へ～渋沢栄一と明治の金融革命～（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 加島屋久右衛門の創業と成長 業態変化に着目して
3. 学会等名 第57回経営史学会全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 近世日本金融市場の構造 Relationship Finance とArm's Length Finance
3. 学会等名 日本金融学会2021年度秋季全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 KURODA Akinbou
2. 発表標題 Locate Colonial Africa in the Global Monetary History Viewed from the Ground
3. 学会等名 International Workshop “ Monetary Transitions in Colonial Africa ” , Department of History and Cultures, University of Bologna (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 KURODA Akinbou
2. 発表標題 Revisiting the “ Modernity
3. 学会等名 Monetary History Viewed from the Ground ’ , Symposium ‘ New Scope of Monetary History Research ’ , Institute of Modern History, Academia Sinica, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KURODA Akinbou
2. 発表標題 A Global History of Money Viewed from the Ground
3. 学会等名 Economic History Seminar, National Taiwan University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KURODA Akinbou
2. 発表標題 Transformation of Silver Usage in Chinese Monetary History: Silvers Cut, Weighed, and Booked
3. 学会等名 Center of Chinese Studies, National Central Library, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 KURODA Akinbou
2. 発表標題 A Monetary Unification Neglecting the Ground Level: Myth of Unified Money in 1935 China
3. 学会等名 Workshop “The Money of the Poor” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIZUME Masato
2. 発表標題 Money Doctors and the Monetary Reform Debate During the Late 19 Century in Japan
3. 学会等名 European Historical Economics Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIZUME Masato
2. 発表標題 Modern Banking Reforms and Financial Activities of Indigenous Merchants: A Case from Japan in the Late 19th Century
3. 学会等名 the 12th BETA Workshop in Historical Economics (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TAKAGI Hisashi
2. 発表標題 Means of Exchange in Small Transactions in 16th Century Japan: lower class bronze coin, silver currency, and credit use
3. 学会等名 Workshop La monnaie des pauvres (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 合評) 岩橋勝『近世貨幣と經濟發展』
3. 学会等名 貨幣史研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 中近世移行期日本における貨幣流通の実態をめぐって：北海道からの視点を含む
3. 学会等名 北大史学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 日本金融史への招待 日本銀行の歴史を中心に
3. 学会等名 大阪経済大学日本經濟史研究所秋季學術講演会(黒正塾)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鎮目雅人
2. 発表標題 歴史からみた現代貨幣理論の適用可能性：日本の事例を中心に
3. 学会等名 日本金融学会金融經濟研究主催コンファレンス「長期停滞・低金利下の財政・金融政策：MMT は經濟理論を救うか？」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TAKATSUKI Yasuo, SHIBAMOTO Masahiko
2. 発表標題 Can Market Economy Mitigate the Influence of Climate Change? Evidence from Pre-industrial Japan
3. 学会等名 The 129th Meeting: The Osaka Workshop on Economics of Institutions and Organizations, OEIO, Jointly Organized with International Public Policy Seminar (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKAYA Sadayoshi
2. 発表標題 A Theoretical Study on Monetary Policy and MFI Supervision Policy by European Central Bank
3. 学会等名 International Academic Conference on “Brexit and Development in Europe,” organized by Institute of European Studies at Tamkang University, Taipei (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKATSUKI Yasuo, SHIBAMOTO Masahiko
2. 発表標題 Climate changes and market economy: the case of early modern Japan
3. 学会等名 大阪大学経済学研究会 (待兼山セミナー)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 歴史ビッグデータと前近代経済史研究 時系列データを中心に
3. 学会等名 歴史ビッグデータ研究会 (人文学オープンデータ共同利用センター)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 気候適応史の試み－近世日本の米市場を素材として－
3. 学会等名 歴史人口学セミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 江戸幕府による金融監督・規制 大坂堂島米市場を中心に
3. 学会等名 金融庁・金融経済学勉強会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 堂島米市場の成立と近世社会
3. 学会等名 同志社大学公開講座『歴史にみる交流・交易』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 江戸時代の「経済学」 大坂米市場へのまなざし
3. 学会等名 大阪経済大学日本経済史研究所第95回経済史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高槻泰郎
2. 発表標題 大坂堂島米市場を舞台とした江戸時代の市場経済の実態
3. 学会等名 TOCOMサロン（東京商品取引所）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高屋定美
2. 発表標題 BrexitをはじめとするEUにおけるリスク
3. 学会等名 下村治プロジェクト研究会、日本経済研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高屋定美
2. 発表標題 EU経済ガバナンスの課題と挑戦
3. 学会等名 日本EU学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Working of the Banking Networks and Central Bank in Late 19th Century Japan
3. 学会等名 Economic History Association Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Commodity Flows and the Payment System during the Edo Era
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Industrial Policy, Equity Finance and the Bank of Japan in a Historical Perspective
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 A Debate on the Monetary Reform during the late 19th Century in Japan
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 The Use of Money in Japan in Light of Space and Anonymity
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masato Shizume
2. 発表標題 Working of the Banking Networks and Central Bank in Late 19th Century Japan
3. 学会等名 Financial History Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 紙幣を中心にみる近世日本貨幣制度像の再構築
3. 学会等名 社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisashi Takagi
2. 発表標題 Reintegration of bronze coins during the late 16th and the early 17th century Japan
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 16世紀日本における貨幣の発行と流通
3. 学会等名 日本金融学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高木久史
2. 発表標題 太宰春台の貨幣論における素材観
3. 学会等名 貨幣史研究会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hisashi Takagi
2. 発表標題 Reintegration of bronze coins during the late 16th and the early 17th century Japan: especially focused on the transactions between Japan and China
3. 学会等名 The 9th World Committee of Maritime Culture Institutes International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sadayoshi Takaya
2. 発表標題 Towards New Fiscal Policy Regime in EU: From an Empirical Investigation by Bayesian VAR
3. 学会等名 European Union Studies Association Asia Pacific Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田直哉・高屋定美
2. 発表標題 ポンドネットワークの盛衰 -国際通貨のネットワーク効果、協働効果、履歴効果の観点から-
3. 学会等名 信用理論研究学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sadayoshi Takaya
2. 発表標題 A Theoretical Study on Monetary Policy and MFI Supervision Policy by European Central Bank
3. 学会等名 International Academic Conference on “Brexit and Development in Europe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroaki Morota
2. 発表標題 Regional Credit Money and Banknote Issuance Agency System: ChineseFree Banking in the interwar period Reconsidered
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Official Paper Money vs Local Native Notes in Modern China
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 The transformation of informal payment systems under the modern banking system in the British India during the 1920s and1930s
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 Transformation of Currency Systems and Role of Banknotes: Case Study of the Activities of British Banks in Siam, 1888-1913
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村雄志
2. 発表標題 1930年代の神戸における横浜正金銀行と華僑の関係について
3. 学会等名 神戸華僑華人研究会例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 加藤慶一郎
2. 発表標題 小規模藩による紙幣の発行
3. 学会等名 日本金融学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安国良一
2. 発表標題 藩札発行における領主の機能
3. 学会等名 日本金融学会秋季大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Bad Money Does Not Drive Out Good Money: Complementarity among Monies in Global History
3. 学会等名 School of Historical Studies Colloquial, Institute for Advanced Study, Princeton (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Another Monetary Economy: A History of Chinese Currencies
3. 学会等名 East Asian Seminar, Institute for Advanced Study, Princeton (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akinobu Kuroda
2. 発表標題 Strategic Peasants, Multiple Markets, and Complementary Currencies
3. 学会等名 18th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 鎮目雅人・高木久史・加藤慶一郎・岩橋勝・安国良一・高槻泰郎・つる見誠良・諸田博昭・西村雄志・高屋定美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 472
3. 書名 信用貨幣の生成と展開	

1. 著者名 Masato Shizume	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 111
3. 書名 The Japanese Economy During the great Depression: The Emergence of Macroeconomic Policy in A Small and Open Economy, 1931-1936	

1. 著者名 Akinobu Kuroda	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 2113
3. 書名 A Global History of Money	

1. 著者名 Akinobu Kuroda (Richard von Glahn and Debin Ma eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 732
3. 書名 Cambridge Economic History of China Vol 1	

1. 著者名 Akinobu Kuroda (Karin Pallaver ed.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 309
3. 書名 Monetary Transitions. Currencies, Colonialism and African Societies	

1. 著者名 蓮見 雄、高屋 定美	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 208
3. 書名 沈まぬユーロ	

1. 著者名 高屋定美（小川英治編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296
3. 書名 グローバルリスクと世界経済	

1. 著者名 高屋定美（本多佑三・家森信善編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 248
3. 書名 ポストコロナとマイナス金利下の地域金融	

1. 著者名 黒田 明伸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 372
3. 書名 貨幣システムの世界史（岩波現代文庫）	

1. 著者名 坂根 嘉弘、森 良次編（高槻泰郎）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 226
3. 書名 日本の経済発展をどうとらえるか	

1. 著者名 小川 英治編（高屋定美）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 258
3. 書名 グローバリゼーションと基軸通貨	

1. 著者名 Masato Shizume, Stefano Battilossi, Youssef Cassis, Kazuhiko Yago	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 750
3. 書名 Handbook of the History of Money and Currency	

1. 著者名 Masato Shizume, Tor Jacobson, Daniel Waldenstrom, Rodney Edvinsson	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 508
3. 書名 Sveriges Riksbank 350 Years: A Central Bank in a World of Central Banks	

1. 著者名 高木久史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 224
3. 書名 撰銭とビター文の戦国史	

1. 著者名 高木久史、都市史学会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 688
3. 書名 日本都市史・建築史事典	

1. 著者名 高屋定美、本田雅子、山本いづみ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文真堂	5. 総ページ数 220
3. 書名 EU経済入門	

1. 著者名 Akinobu Kuroda, Georgina M. Gomez	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 314
3. 書名 Monetary Plurality in Local, Regional and Global Economies	

(産業財産権)

〔その他〕

https://waseda.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=3062&pn=1&count=20&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=21
 瀧札等に関する統合データベース
https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=repository_opensearch&index_id=3062
 早稲田大学研究者データベース
<http://researchers.waseda.jp/profile/ja.072d90a1af5e0fcb4f4a0a4c69c3be78.html>
 安田女子大学日本文学科学科ニュース
http://www.yasuda-u.ac.jp/course/bungaku/news/page/post_173.html
 安田女子大学日本文学科学科ニュース
http://www.yasuda-u.ac.jp/course/bungaku/news/page/post_140.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	つる見 誠良 (Tsurumi Masayoshi) (10061227)	法政大学・比較経済研究所・研究員 (32675)	
研究分担者	西村 雄志 (Nishimura Takeshi) (10412420)	関西大学・経済学部・教授 (34416)	
研究分担者	高木 久史 (Takagi Hisashi) (50510252)	大阪経済大学・経済学部・教授 (34404)	
研究分担者	高屋 定美 (Takaya Sadayoshi) (60236362)	関西大学・商学部・教授 (34416)	
研究分担者	加藤 慶一郎 (Kato Keiichiro) (60267862)	大阪商業大学・総合経営学部・教授 (34410)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	諸田 博昭 (Morota Hiroaki) (70785089)	山形大学・人文社会科学部・講師 (11501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	EHESS	Universite Paris Nanterre		
スウェーデン	Uppsala University			
コロンビア	Universidad de los Andes			
フランス	Banque de France			
スウェーデン	Lund University			
コロンビア	Universidad de los Andes			
米国	Rutgers University			
ベルギー	Universite Libre de Bruxelles			
コロンビア	Universidad de los Andes			
スウェーデン	Lund University			
フランス	Banque de France			